

論文審査の結果の要旨

報告番号	共博（医歯薬）甲第3号	氏名	松尾 政彦
学位審査委員	主査	松田 尚樹	
	副査	永山 雄二	
	副査	田中 悟郎	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、原子力災害による避難指示の解除された地域に帰還後の住民が日常生活で受ける外部被ばく線量を、福島県富岡町の環境モニタリングの結果をモデルケースとして評価したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 富岡町の一般居住区域におけるγ線周辺線量当量率、及び家屋周辺の土壌の放射性セシウム濃度を実測し、屋内における遮蔽係数、屋内外の滞在時間、線量単位換算係数等の適切なパラメータを用いて被ばく線量を推定しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、避難指示解除区域における生活では年間で約1.6mSvの累積周辺線量当量が見込まれ、そのうち土壌中の放射能から受ける実効線量は約0.17mSvと推定された。周辺線量当量率と、土壌中放射能濃度より算定した実効線量は、特に高線量率、高濃度域においてよく相関しており、家屋周辺の高放射能箇所が推定被ばく線量に大きく影響することが示された。これらの結果は、残存被ばく地域への帰還後の住民のリスク推定と、それに基づくリスクコミュニケーションに直結するものであり、原子力災害後の地域復興に資する研究成果として高く評価される。</p> <p>以上のように本論文は放射線災害医療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			